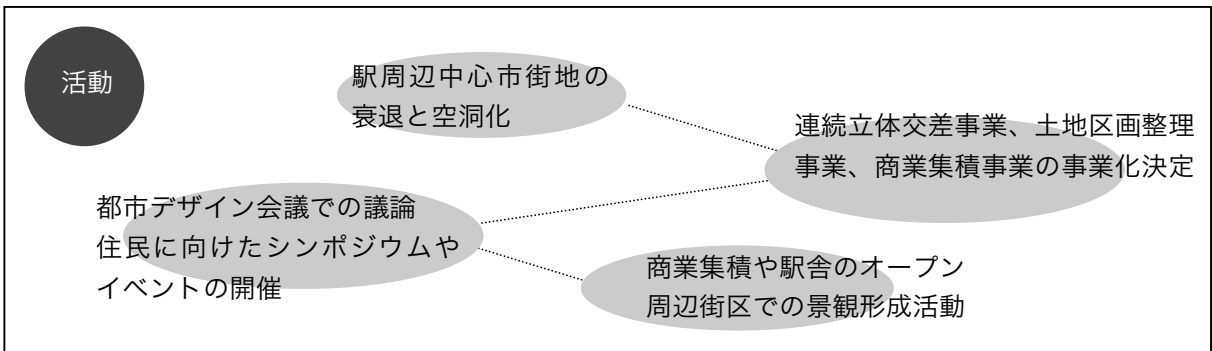
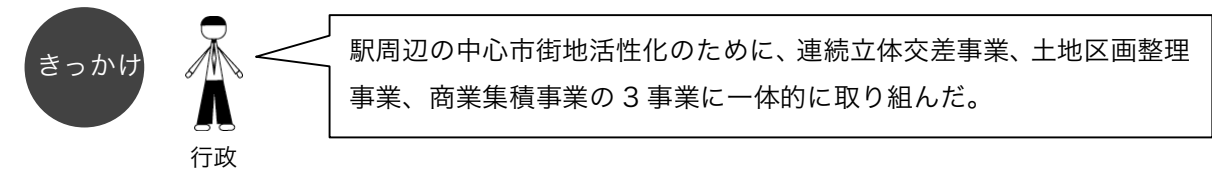
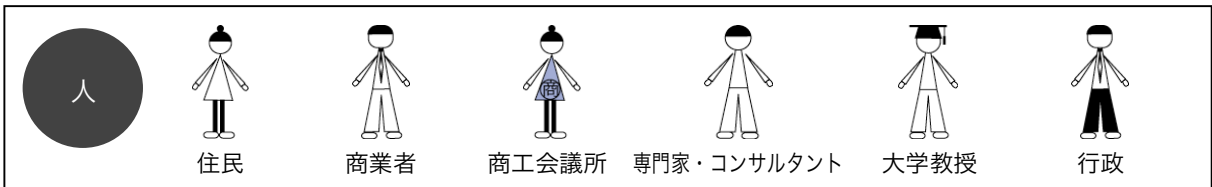




駅周辺の中心市街地活性化を模索していた日向市は、連続立体交差事業、土地区画整理事業、商業集積事業の3事業を一体的に進めることで、駅周辺の再整備に取り組みました。

有識者や優れた専門家の参加を得ながら、都市デザイン会議で3事業の総合的な議論を積み重ね、質の高い景観形成を実現しました。

公共事業に触発された住民によって、自主的な景観まちづくりも行われています。



- 効果**
- 駅周辺の密集市街地が再整備され、また、鉄道踏切による交通渋滞が解消される
  - 地域のシンボルとなる駅舎と駅前広場が完成する
  - 駅周辺の商業機能が活性化される
  - 住民により、民有地での自主的な景観まちづくりが生まれる

- 住民・商業者**
- 商業集積事業による商業活性化（商業者）
  - 民有地における自主的な景観まちづくり（住民・商業者）
  - まちづくり団体の設立（住民）

- 専門家・コンサルタント**
- 質の高い景観デザインによる空間整備（専門家）
  - 地場産材の活用のための技術開発（企業・県）

- 大学教授**
- 行政、住民、商業者、専門家の統括による景観まちづくりの牽引

- 行政・商工会議所**
- 鉄道高架と駅舎の新設（県）
  - 土地区画整理と駅前広場の整備（市）
  - 行政と商業者の仲介等による商業集積の支援（商工会議所）

1990

中心市街地の空洞化、鉄道踏切での交通渋滞など、駅周辺では衰退が進む一方でした。そんな中、商業振興を図るため、事業者と市の間で協議が行われるようになります。

商業振興のための協議会



それじゃあちょっと...

商業振興計画案

コンサルタントです提案します!

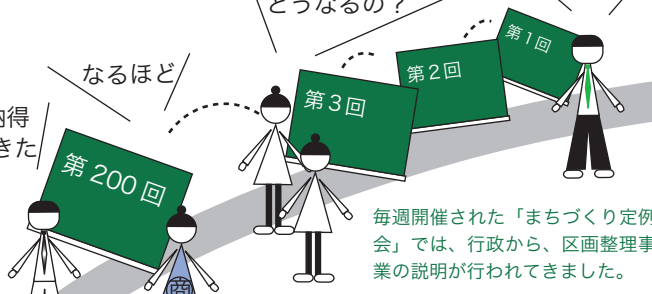
コンサルタントの計画は、事業者の考えとギャップがあり、事業者はトーンダウンしてしまいます。

1994

こんなことやります

まちづくり定例会

このところどうなるの?

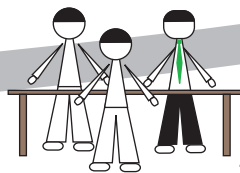


だんだん納得できてきた

なるほど

議論を積み重ねていくうちに、行政・住民・事業者との間に信頼関係が生まれていきました。

地域の自然・歴史... 将来都市像...



まちづくり研究会

商業も行政も一緒にやっていかなきゃ



鉄道高架化決定

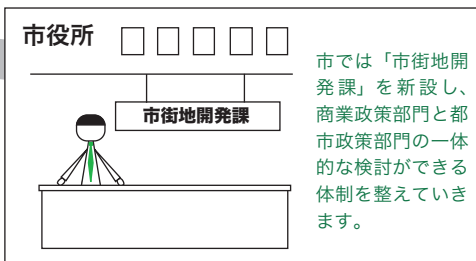
次は日向でやります

そんなとき、県から鉄道高架化事業の実施が発表され、がぜん中心市街地整備のやる気が高まります。

「日向市駅周辺まちづくり研究会」では、市と学識経験者が集まり、生活文化交流拠点としての将来都市像を策定しました。

市役所でも一体的に

1998



1998

土地区画整理事業決定

連続立体交差事業決定

商業振興も一緒に!

商業集積事業決定

タウンマネージメント機関の設置

高架のデザイン検討

ひゅうが商業タウンマネージメント構想策定委員会

商業施設や商業核の形成

日向地区鉄道高架・駅舎デザイン検討委員会

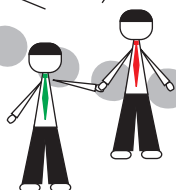
日向市街なか魅力拠点整備検討委員会

都市デザイン 公共空間の景観形成

中心市街地活性化方策



一緒にやっていきましょう

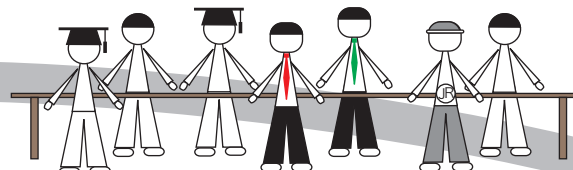


商業はもっと頑張ってください！

高架下はどう使う？

高架の Spann 変更しよう

日向地区都市デザイン会議

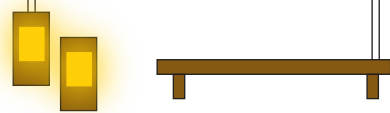


市と県で、それぞれ行われていた会議や委員会が連携して、駅舎や高架、駅前広場、周辺街区の景観デザインを一体的に行うこととしました。多くの専門家がかわることで、高質な空間が形成されていきます。

ほかにもいろいろやっているよ

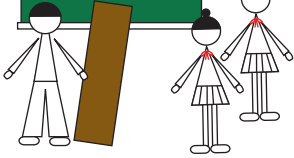


杉コレクション  
ステーションファニチャーコンテスト



まちづくりのテーマに「木の文化」とし、地場産材である杉を活かした取組みが行われています。地元の森林組合の協力も得ながら、ステーションファニチャーのコンテストが開催され、グランプリに輝いたベンチが駅に設置されました。ほかにも、バスストップ、街灯、ストリートファニチャーなど、建築かやデザイナーがかかわりながら、様々なところで杉材が使われています。

課外授業  
杉を使おう！



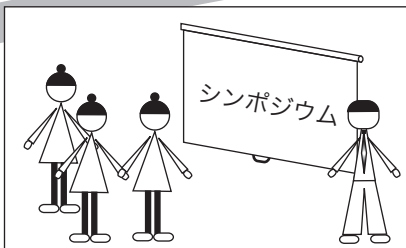
子ども達にも興味をもってもらおう



大人もね



シンポジウム



イベントだ！

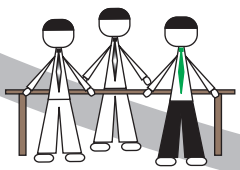


中心市街地に関心を持ってもらうと、イベントを開催しました。

まちづくりルール  
つくろう！



街並み景観づくり協議会



地区計画



景観のことちゃんと考えなくちゃ

駅や広場のデザイン  
かっこいいな



市街地戦略  
実行プラン  
策定！

ソフト面の活動  
しましょう

新町まち育て  
グループ

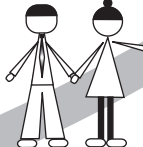


子ども  
まち育て隊



街区申し合わせ  
事項の助言や  
指導するよ！

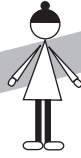
日向市駅周辺  
景観研究会



それなら  
女性の視点で！

女性たちにちゃんと  
情報が伝わって  
いない

新町女性懇談会  
本町女性懇談会



## □景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント□

## 原則1 《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

## ●地域の特性や景観資源を踏まえたまちづくりテーマの決定

- ・ 駅周辺の再整備に向けた検討を開始した日向市が、最初の段階で取り組んだのが地区の特性や魅力の把握と再評価でした。地域の自然景観や歴史・文化資源の整理を踏まえて、富高古墳（山）と細島港（海）を結ぶ東西軸と、南北方向の鉄道軸という、駅周辺空間の基本パターンが設定されました。この基本パターンは、整備計画や施設配置等の検討における考え方の土台となりました。
- ・ さらに、宮崎県は日本有数の杉の生産地であり、中でも日向圏域がその中心であることから、「木の文化」というまちづくりのテーマが決定されました。

>>自然や産業などの地域特性や、身の回りにある景観資源を見直すことで、景観まちづくりの手がかりや目指すべき方向性が見えてきます。

## ●地場産材を積極的に活用した施設整備

- ・ 「木の文化」というまちづくりのテーマに沿って、各種施設の整備に向けて、地場産材である杉材（耳川流域の杉）の使用が検討されました。杉材は、強度や耐久性の面から、通常は屋外では使用されません。そのため、様々な検討が積み重ねられ、地元の材を使って、地元の技術で可能な施工方法やメンテナンス方法が開発されました。そして、駅舎の屋根や、駅前広場や駅周辺の街区のプランター、街灯の支柱、ボラード、ベンチなど、様々な場所で杉材を使用した施設整備が行われました。

>>地場産材を活かした景観まちづくりは、地域の風土にあった、まちの個性をつくり出します。

>>景観まちづくりにおける地場産材の活用は、技術開発や新たな使用方法の発見にも繋がり、地域の産業振興のきっかけにもなります。

## 原則2 《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

## ●中心市街地を専門に扱う部署の設置

- ・ 駅周辺の再整備を模索する日向市では、過去の商業振興計画の反省を踏まえ、中心市街地を専門的に扱う「市街地開発課」を新設しました [平成8年(1996)]。これにより、都市政策部門と商業政策部門を一体的に検討することが可能になりました。また、商業者や住民に対する窓口も一本化され、議論や調整が進みやすい体制が作られました。

>>柔軟な組織づくりにより一体的な検討体制を構築することが、景観まちづくりに推進力を与えます。

## ●まちづくり定例会の積み重ねによる行政と商業者・住民の信頼関係構築

- ・ 駅周辺の活性化が課題となっていた日向市では、過去の商業振興計画の停滞によって、商業者はま

ちづくりに対する意欲を失いかけていました。この状況を打開したのが、行政と商業者、商工会議所による毎週の「まちづくり定例会」でした〔平成6年（1994）から〕。通算200回に及ぶ会合を積み重ね、まちづくりについて話し合う中で、信頼関係が構築されていきました。

- ・ この中では、行政から土地区画整理事業や商業振興支援策に関する説明を行いました。特に、有効だったのが、土地区画整理事業の説明であり、過去の事業施行の中で培った技術力をもとに、減歩率や建物移転補償金等に関する商業者からの様々な疑問や質問に対して、具体的で迅速な回答を行ったことが信頼の獲得に繋がりました。また、行政と商業者のパイプ役としての商工会議所の役割も重要でした。商業者に対して、行政では言いづらい事柄を指摘し、まちづくりにおいて商業者が果たすべき役割を自覚させるとともに、商業計画に対する助言や支援を行うことで、まちづくりに対する商業者の意欲を引き出していきました。

>>景観まちづくりの推進には、行政と住民、事業者等の信頼関係の構築が大切です。

>>公共事業を主体とした景観まちづくりでは、行政による丁寧な事業説明や透明性の高い情報公開が、住民や事業者からの信頼獲得に繋がります。また、行政と住民や事業者の間に立つパイプ役が存在することで、議論が円滑に進みやすくなります。

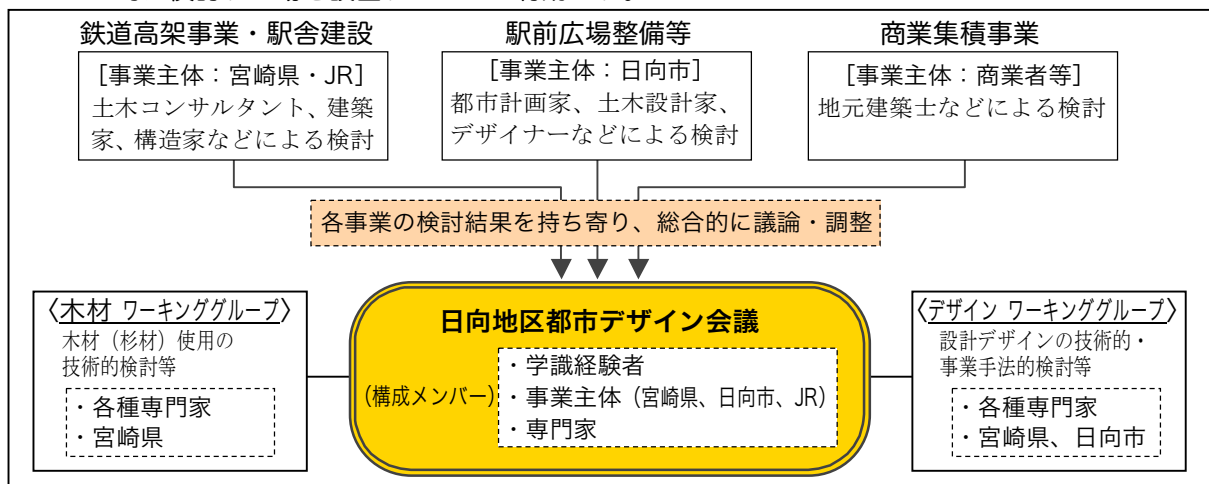
### ●優れた専門家の参加と、景観デザインに関する検討機関の設置によるコラボレーション体制の構築

- ・ 日向市駅周辺の再整備には、多くの優れた専門家が関わっています。すなわち、高架の設計を行ったJRやコンサルタント、駅舎の設計を行った建築家や構造家、駅前広場の設計を行った土木設計家、ストリートファニチャーのデザインを行ったデザイナー、計画の調整を行った都市計画家、全体統括を行った有識者などが関わっています。これらの専門家の能力の高さが、景観のクオリティを支えています。

- ・ 駅周辺で3つの事業が同時に進められていく中で、景観デザインに関する総合的な検討の場として、「日向地区都市デザイン会議」が設置されました〔平成13年（2001）〕。ここでは、事業主体毎に行われた検討結果が持ち寄られ、一括的・総合的な検討や調整が行われます。このような、コラボレーション体制での議論を積み重ねたことで、質の高い景観デザインが生み出されました。

>>発注方式の工夫などにより、有能な専門家が継続的に関われる体制を作ることで、優れた景観デザインが可能になります。

>>景観デザインの質を高めていくためには、関連する事業等を総合的に検討・調整することが必要です。コラボレーションの出来る優れた専門家の参加を得ながら、景観デザインを総合的に検討する場を設置することが有効です。



日向市駅周辺の再整備における検討体制



### ●地元木材関係者や木材利用技術センター、メーカー等による技術開発

・各種施設の整備では、地場産材である杉が積極的に使用されています。杉材は、屋外での使用のための技術が確立されていなかったことから、使用にあたり、木材関係者や鋳物メーカー等により、加工や施工のための技術開発が行われました。また、駅舎では、杉の集成材が構造材として使用されていますが、この製作に当たっては、宮崎県の木材利用技術センターにより、技術開発が行われました。このような努力によって、地場産材の活用が可能になりました。

>>技術者やメーカー等の協力を得ることで、新たな素材や材料の活用が可能になります。特に、地場産材の活用には、地元の技術者の協力が不可欠です。

## 原則 3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮

### ●3事業の一体的推進による駅周辺再整備

・日向市駅周辺では、中心市街地の活性化が模索される一方で、効果的な解決策がみいだせず、まちづくりに対する事業者のやる気が失われかけていました。このような状況の中、土地区画整理事業を基幹事業として、連続立体交差事業や商業集積整備事業を組み合わせることで実施したことが、中心市街地の活性化に向けた事業者のやる気を引き出すことになりました。そして、鉄道高架橋と駅舎、駅前広場が一体的に検討・整備されたことで、連続的な景観が形成されるとともに、新たに生まれた鉄道高架下には、交流・集客機能が導入されることとなりました。

>>複数の事業を組み合わせることにより、魅力的なまちの将来像を実現化することが可能となり、景観まちづくりに対する関係者の意欲を引き出すことに繋がります。

>>複数の事業を組み合わせることで、一体的な景観形成が可能になります。

### ●シンポジウムやイベントを通じた市民への情報提供と意識啓発

・3事業による駅周辺の再整備が進んでいく一方で、まちづくりに対する一般市民の理解はなかなか得られない状態でした。これに危機感を感じた行政は、駅周辺再整備に関するシンポジウムを開催し、市民に対する情報提供と意識啓発に取り組みました [平成11年(1999)から計5回]。

・また、駅周辺の街区が先行して完成すると、「土曜夜市」や「日向十五夜祭り」、「街なかハロウィン」、「日向ひよっこ夏祭り」などのイベントを開催しました。これらの取り組みによって、駅周辺の再整備や中心市街地に対する市民の関心を集めることに成功しました。

・地場産材である杉材の使用にあたっては、宮崎県木材青壮年会連合会の主催により、新設される日向市駅に置かれるステーションファニチャーのアイデアを募集する、「杉コレクション」というコンテストが開催されました。ここでグランプリに輝いたベンチは、実際に日向市駅に設置されました。

・シンポジウムやイベントに加え、様々な機会を通じてまちづくりについて説明を行っていったことで、中心市街地活性化を考える市民グループや、女性の視点からまちづくりを考える会合が誕生しました。

>>景観まちづくりの推進には、シンポジウムやイベントなど、市民が楽しんで参加できる取り組みを開催し、一般住民に対する情報提供と関心喚起に努めることが有効です。

>>市民が景観まちづくりについて考える場を提供することにより、市民による自主的な活動が生まれるきっかけにもなります。

#### ●将来の景観まちづくりを担う子供に向けたまちづくり課外授業

- ・ 駅周辺の再整備が進んでいく中で、大人だけでなく、将来の景観まちづくりを担う子どもたちにも、自分たちのまちについて興味を持ってもらおうということから、行政や学校等が中心となって、学校でのまちづくり課外授業が開催されました。
- ・ この中で特筆すべきは、杉で作る「移動式夢空間」と題して行われた授業でした。小学6年生を対象として、6ヶ月間、40時間以上にわたる課外授業を通じて、子どものアイデアを元に、駅前空間や祭りイベントで実際に使用できる屋台が製作されました。この際には、駅周辺のストリートファニチャーの製作に関わったデザイナーが講師を務めました。また、地元木材関係者が、杉林や原木の競り市場、製材所の見学のための段取りを行うとともに、屋台製作の際の材料提供や技術協力を行いました。
- ・ この際に作られた屋台は、翌年グッドデザイン賞を受賞し、児童一人ひとりに記念のトロフィーが贈呈されました。屋台は、現在は市に移管されており、新駅開業イベントを始め、様々な場面で活躍しています。

>>自分たちの住むまちや地域の特産材について考え、表現することが、子どもたちの深い地域理解や地域への愛着に繋がり、景観まちづくりに積極的に参加する姿勢を育みます。

>>10歳の子どもも、10年後には20歳。子どもたちの関心喚起の取り組みは、将来の景観まちづくりに向けた土台作りでもあります。

#### ●公共事業に触発された住民や事業者による自主的な景観形成活動

- ・ 駅周辺の街区が先行して完成し、駅前広場の整備や駅舎の建設が進む中で、駅周辺の街区の代表者が参加した協議会での検討を経て、駅周辺のまちづくりのルールを定めた地区計画が策定されました。地区計画では緩いルールが定められただけでしたが、策定過程において市民が景観まちづくりについて考えたこと、さらに、駅前広場や駅舎など、公共空間において質の高い景観形成が行われたことにより、住民や事業者の中から、自主的な景観形成の動きが起きました。各街区では、街区の「申し合わせ事項」として、景観形成に関する自主的なルールを定め、景観まちづくりに取り組んでいます。

>>公共空間における良好な景観形成が、市民の景観に対する意識を高め、民有地における自主的な景観まちづくりを誘発することに繋がります。